

西之内町地車新調実行委員会通信

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（15）

秀頼公薩摩落ちく

暦の上ではもつとも暑い大暑の候となりましたが、西之内町の皆様におかれましてはますますお元気でお過ごしのことと存じます。

西之内町の夏の風物詩でもあります盆踊りは、14日だけの開催で執り行われる計画で進められております。コロナ感染者が増加しているさなかではありますが、対策を講じて無事に開催できることを願うばかりであります。

さて、今月も新調地車の彫り物の場面について少しご紹介します。先月号では『難波戦記』にて、徳川家康が半田寺山で落命したという逸話をご紹介しましたが、敵対する豊臣秀頼にも史実と異なる逸話があります。

「花のようなる秀頼様を鬼のようなる真田が連れて退きも退いたり加護島へ」というわらべ唄が、大坂の陣のあとに庶民の間で広がります。作者も作成された時期

2022年
7月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
0724447712



謎多き大坂城

も諸説あり、何が本当かもわかりませんが、400年近くも以前に作られたわらべ唄が現在にも残っているという事実であります。複数の武将の書簡に「秀頼自刃」について記載されていますが、難攻不落の大坂城において、仮に城が陥落しても城主が逃れる何かがあつたのではないかと推測するのが歴史の醍醐味であります。

秀頼は追いつめられて、逃げ場がないの

で仕方なく山里曲輪で自害しましたとされていますが、それではあまりにあつけない結末です。『大坂御陣覚書』では、秀頼の遺体について「御死骸見え分らず」と記されています。『難波軍実録』では、首はなく黒焦げの遺体のため、秀頼かどうか判別がつかないと記録があります。

秀頼は幸村に向かい「母上とはもはや今生の御暇乞いとなるため、秀頼だと判定されておりますが、軍師真田幸村が豊臣方に加わった合戦ですので、普通には終わらせないところが『難波戦記』なのではないかと思われます。

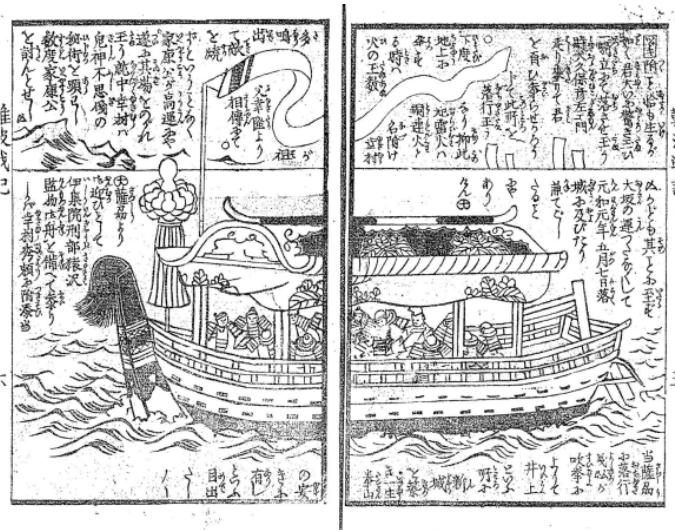
では、城の外に脱出したとすると、どのようにしたのでしょうか。大坂冬の陣での和平交渉で外堀を埋められ、裸同然となつた大坂城で、20万もの大群と応戦したわけですが、どこかに隠し通路や抜け穴があつたのではないかと思われます。

幸村は後々の事を案じて落城に備えていました。腹心の根津甚八を呼び出し、一計を授け、それから秀頼の御前に申し

出で「今宵、増田兵蔵を夜討に出来ましたから、かねて申し上げておいた通り、只今から密かに抜け穴を潜り抜け、船に乗り薩州に落ち延びて戴きたい。某が何處までもお供を致します」と勧めると、秀頼もそれではこれより立ち退こうと用意をします。

秀頼は幸村に向かい「母上とはもはや今生の御暇乞いとなるでしょうから、一度対面して出発致したい」と申しましたが、幸村はこれを竦めて「母子の因縁がある上は實にそのような別れもありうるでしょう。しかし、今回の事は前々から申し上げたように、大事の前の小事です。母君とご対面しては万々不都合なことになりましよう。只々お父上の事を大切に考えて、対面の儀はたつて思い止まつて下さい」と言い、長宗我部も後藤も辞を揃えて「謀事は秘密が第一です。君がここで母君にお会いになるなら、母君に付き従う女儀の中に万一助名の者がいた場合にその口から秘密が敵に洩れてしまえば、海上にお命を落

とされる事必定です。それでは、ご自害と敵を欺き油断させた謀事もみな水の泡になつてしまい、口惜し



難波戦記挿絵
秀頼公薩摩落ち

その人数は数百五十人と伝えられ、船の鏡を解き、海波を越えて日ならず薩摩に到着しました。今でも、南薩摩には秀頼と幸村の墓石があり、本当に落ち延びたか、真相は不明です。しかし、琉球には真田が栄えると書いて、真栄田（まえだ）という苗字が残つてていることから、事実なのかもしません。信じるか信じないかは、新調地車の彫り物をみて決め

く大助、長宗我部、宮内少輔、同じく三男右衛門三郎、後藤又兵衛、真田の郎等海野三左衛門、望月主水、笈川与八郎、穴山新兵衛、相木森之助、筧金六、三輪琴之介、

と申しました。一遠国よりわざわざ船を出して迎えに来たこと神妙である」と礼を述べた秀頼公一同、船に乗り込みました。その時の面々は、真田左衛門幸村、同じ

ました。家人は「かねての命に従
い、兵庫の浦に船を着けて案内の
ためにお出迎えに参ったのです」

ていただくのも、面白いかもしません。この場面の彫り物をご期待ください。

昇魂式日程決定

昇魂式の日程が決まりました。

日) を予定しています。曳行時間等については、順次決定していくことになります。

時系列でこの曲はやめて、現地車が町内で曳行される最後となります。様々な形で携わ

持ちを込めた昇魂式にしたい思います。どうぞ、宜しくお願ひ申し上げます。

新調地車の彫り物

進捗報告

横槌、懸魚の着手

山本師の工房では先月に引き続き、大脇の仕上げ作業を行つております

ます。この部分では、通常の角度からある人物が見えにくいのではという不安もありましたが、問題なく仕上がりが進み、安心した次第です。

新調地車は、そのなかで完成を迎える。子ども会や育成会をはじめ、今からでも祭礼団体への入会をお待ち申し上げております。祭りと一緒にやりましょう！

今年の祭りに対し、不安があります。子どもや中学生の参加がどれくらいあるのだろうかという点です。コロナは収束せず、いまだに感染が広がる状況です。その中で、祭礼開催に向け、準備が進んでいますが、果たして以前のように子どもたちは

新調委員の独り言

部分の鉢に取り付けられる部位で、親孝行の教えを説いたものや、人間の一生を説いたものを表現する計画で進めております。また、懸魚は地車全体の表情を引き締める部分でもあり、下絵の作成から慎重にとりかかっております。

細かい一つ一つの部位にも意味を持ち

木鼻に関しては、満足のいく表情が出来上がっております。荒彫りの段階ですが山本師の表現力あふれる作品に感嘆しております。